

にじの空通信

4月になりました。日本では1月の新年よりも、4月の年度替わりのほうが、新しいステージの始まりという印象がありますね。急に気温も上がり、花のつぼみはほころび、日差しも力強くなります。この短いさわやかな季節を楽しみたいものです。さて、家庭菜園の話です。3月に、まずはミックスサラダ、ミニキャロット、大葉、ししとうの種をまきました。サラダ菜は早々に芽を出しましたが、キャロットと大葉は数日前にやっと顔を出したところです。どの種も爪の先ほどの小ささで、乾燥しているときは沈黙を守っていますが、土と水分、そして温度という条件がそろえば、一斉に芽吹きます。驚くべき仕組みです。

世界で戦争が起きようと、経済が混乱しようと、悲惨な事件や災害が起ころうと、植物は淡々と発芽し、桜も開花します。その姿は、ある種無慈悲にも見え、あるいは悟っているかのようにも感じられます。自然の摂理のもとでは、人間の感情など取るに足らないものかもしれません。

実際、クリニックでは、親子、夫婦、友人、職場などにおける「人間関係」の悩みがよく語られます。ヒトは、どうしてこれほど感情的で複雑な生き物なのでしょう。おそらく、これは人類の生存戦略なのでしょう。ヒトは生き延びるために、個の力だけでなく、「他者の力を借りる」「集団で協力する」という方向で社会を築いてきました。

その結果、私たちは原始時代とは比較にならないほど安全で便利な世界を手に入れましたが、その副産物として、「人間関係の摩擦」や「個の価値や尊厳」といった深く難しい問題も抱えることになりました。社会的生物として生きる以上、避けられない側面なのかもしれません。

ただ、植物は環境条件が悪くなれば枯れるしかありませんが、人間は自らの意思で環境を変えることができます。別の場所で助け合える関係を築き直し、自分の生活をよりよいものへと変えていくことができるはずです。

4月は新しい環境に身を置く方も多いでしょう。そこに安心・安全がなければ、適応のための工夫も大切ですが、「生き延びるために自分で環境を変える力」があることも、どうか忘れないでください。

それでも植物は、自らが枯れても、より良い環境へと種子を遠くに運びます。人間もまた、子孫に少しでもよい環境を残せるよう、広い視座を持ちたいものです。争いの絶えない世界を見渡すと、やはりヒトは植物の域には達せないのかもしれません。どの戦争も、一日も早く終わることを願うばかりです。

院長 大塚 佳子